

二国間交流事業 セミナー報告書

令和5年4月30日

独立行政法人日本学術振興会理事長 殿

[日本側代表者所属機関・部局]

東京薬科大学・薬学部

[職・氏名]

教授・野水基義

[課題番号]

JPJSBP 220228803

1. 事業名 相手国: 韓国 (振興会対応機関: NRF) とのセミナー

2. セミナー名

(和文) ヒト疾患における細胞外マトリックスの新しい役割の解明

(英文) Unveiling new roles of the extracellular matrix in human diseases

3. 開催期間 2022年10月20日 ～ 2022年10月22日 (3 日間)【延長前】 年 月 日 ～ 年 月 日 (日間)

4. 開催地(都市名)

済州島 (Jeju island)

5. 相手国側代表者(所属機関名・職名・氏名【全て英文】)

Korea Institute of Science and Technology /Korea University, Principal
Research Scientist / Professor, In-San Kim6. 委託費総額(返還額を除く) 1,140,000 円

7. セミナー参加者数(代表者を含む)

	参加者数	うち、本委託費で渡航費または 日本滞在費を負担した場合*
日本側参加者等	10 名	8 名
相手国側参加者等	30 名	-名

参加者リスト(様式 B2)の合計人数を記入してください。該当がない箇所は「0」または「-」を記入してください。

* 日本開催の場合は相手国側参加者等の日本での滞在費等を負担した場合、相手国開催の場合は日本側参加者等の渡航費を委託費で負担した場合に記入してください。

8. セミナーの概要・成果等

- (1) セミナー概要(セミナーの目的・実施状況。第三国からの参加者(基調・招待講演者等)が含まれる場合はその役割とセミナーへの効果を記載してください。関連行事(レセプション、見学(エクスカーション)その他会合(別経費の場合はその旨を明記。))などがあれば、それも記載してください。各費目における増減が委託費総額の50%に相当する額を超える変更があった場合には、その変更理由と費目の内訳を変更しても計画の遂行に支障がないと考えた理由を記載してください。)

本セミナー「Unveiling new roles of the extracellular matrix in human diseases」は、2022年10月20日～22日の3日間で韓国済州島において開催された。日本側から10人、韓国側からは30人の参加者で、全員が発表する形で行われた。10月20日午後はPlenary LectureとしてIn-San KimとSang Geon Kimが講演した。これまでの細胞外マトリックス(ECM)に関連した研究の流れの理解を深めた。10月21日の午前は、「Roles of ECM in inflammatory disorders: 炎症性疾患における細胞外マトリックスの役割」に関し6人の研究者の発表と討論を行った。午後は「Diagnostic and therapeutic applications using ECM-derived substances: ECM由来物質を使用した診断および治療への応用」に関し8人の研究者の発表と討論を行った。その後、Young Scientist Sessionを「Young Investigation in Matrix Biology」と題して、11演題のポスターと6演題の口頭発表を行い、若手育成も踏まえ討論を行った。国際的な視点からの研究推進など、若手研究者の育成に意義があるものであった。10月22日午前は、「Structural and functional roles of the ECM in the tumor microenvironment: 腫瘍微小環境におけるECMの構造的および機能的役割」に関し7人の研究者の発表と討論を行った。本セミナーはKumho Jeju Resortで開催され、全員が同じホテルに滞在したため、講演時の他、レセプションや食事の際も多くディスカッションが進められ、日韓のECM関連研究の研究交流を展開することができた。

- (2) 学術的価値(セミナーにより得られた新たな知見や概念の展開等、学術的成果)

本セミナーでは、細胞外マトリックス(ECM)に関連した疾患に対応するため、新たなECM機能の解明と疾患を克服する戦略の策定を目的に討論を行った。日韓の研究者の長所を最大限に反映した実質的な研究の活性化が可能な分野として「腫瘍微小環境」、「炎症性疾患」、「臨床応用」の3つのテーマにおいてセッションを行った。ECMの機能解明と臨床応用を目指した本セミナーを通して共同研究に発展することによる相乗効果が期待できるものである。

- (3) 相手国との交流(両国の研究者が協力してセミナーを開催することによって得られた成果)

本セミナー参加者は日韓両国のECM関連学会(日本結合組織学会、韓国生化学分子生物学会)に所属しており、両学会は約10年にわたり少人数の研究者の相互招待を行ってきた。しかし、本申請セミナーのような日韓の主なECM研究者が集まる会合は行われたことがない。本セミナーが日韓合同セミナーの最初の企画であり、今後の日韓のECM関連研究の研究交流や共同研究の基盤の形成につながるものと期待される。

- (4) 社会的貢献(社会の基盤となる文化の継承と発展、社会生活の質の改善、現代的諸問題の克服と解決に資する等の社会的貢献はどのようにあったか)

本セミナーは主に学術研究を中心に討論を行ったが、レセプション等で日本と韓国の両国の文化的な交流も多少あり、今後のさらなる交流が期待される。

- (5) 若手研究者養成への貢献(若手研究者養成への取組、成果)

10月21日午後にポスドクや大学院生によるポスター発表と口頭発表によるYoung Scientist Sessionを行った。若手研究者の11人の発表に対して日韓双方の研究者による研究討論を行った。本若手セッションは、国際的な視点からの研究推進など、若手研究者の育成に意義があるものであった。また、本セミナーの討論を通して若手研究者間の交流も広がった。

(6) 将来発展可能性(本事業を実施したことにより、今後どのような発展の可能性が認められるか)

本セミナーにより、マトリックスバイオロジー分野での日本と韓国の交流が盛んになることが期待される。実際に日本結合組織学会と韓国生化学分子生物学会でのシンポジストの相互招待が継続されるとともに、将来的には合同でのシンポジウムの開催構想が出てきている。本セミナーにより両国のマトリックスバイオロジー分野での学術交流の発展の可能性が認められている。

(7) その他(上記(2)～(6) 以外に得られた成果(論文発表等含む)があれば記載してください)

現在までのところ成果(論文発表等含む)はない。